

時代が求める公認会計士

1 公認会計士業界を取り巻く環境

(1) 公認会計士の人数

近年の公認会計士試験の合格者数は、平成19年度約2,700人、平成20年度約3,000人、平成21年度約1,900人、平成22年度約1,900人、平成23年度約1,500人です。また、合格直後に就職・内定した人は平成21年度合格者で約1,350名、平成22年度合格者で約1,100名になります。

現在、日本全体に存在する会計士（公認会計士及び準会員の合計）は、約32,000人になります。このうち4分の1が近年ここ4年での合格者です。公認会計士という資格が誕生し、試験制度が始まった当時の合格者数は200名前後だったことを踏まえると、いかに近年急激に合格者が増加したかがわかります。なお、今後の合格者数は1,500人程度の間で調整していくことが金融庁により検討されています。

一見すると合格者数を増やしすぎている感がありますが、他の先進国であるアメリカでは会計士が約35万人おり、監査法人以外に勤めている人が60%います。したがって、労働市場さえ整えば、日本の公認会計士も十分活躍できる場が広がると考えられます。

(2) 公認会計士の待遇及び雇用状況

会計士の待遇、特に給与面についてですが、平成18年～平成20年の大手監査法人における初任給は約30万円～約35万円でしたが、近年は不況の影響もあり、約20万円台後半が相場のようなようです。しかし、大手監査法人出身の理事長いわく「30年前は一般企業と同じ位の初任給だった」こともあり、今が適正な額に落ち着いていると考えられます（むしろ平成18～平成20年が異常であったといえます）。

現在の雇用状況についてですが、平成18年～平成20年の間は、J-SOX導入時の特需の影響で、監査法人への就職を希望した場合、面接を1回受けると内定が即もらえるような状況でした。非常勤勤務での採用も盛んであり、空前的売り手市場でした。また、監査法人以外の一般企業でも、公認会計士試験合格者であれば積極的に採用していました（合格者の大半が監査法人に入所したため、一般企業へ就職した方は非常に少数でしたが）。

しかし、現在は状況が一変し、厳しい状況となっています。やはり、リーマンショックが日本に与えた影響は大きく、その影響は受験後の就職ガイダンス等にも現れてきています。

昔の会計士試験合格者の就職パターンは、合格後にはまず監査法人に行き、監査業務を何年か経験した後、独立もしくは監査法人のパートナーになるというのが一般的でした。しかし、今後は監査業界だけではなく、一般企業や官公庁などにも幅広く目を向けることが必要といえ

るでしょう。

2 これからの公認会計士に求められるもの

求められるスキルを考える前に念頭におかなければならないのは、現在、企業は変化し続けなければ生きることができないという時代であることです。例えば、ソフトバンクについて言えば、昔はパソコンの商社だと自社のことを謳っており、パソコンの本を出版してパソコンの便利さを世の中に知らせる業務に専念していました。しかし今は巡り巡って通信業者になっています。

このようにソフトバンク1つを例に挙げても様々なビジネスをやっていることがわかります。昔は1つのビジネスに30年と言われていましたが、今は1つのビジネスに3年だといわれる時代です。このような時代においては、会計・監査の専門知識は当然として、他にプラスアルファの能力を常に磨き続ける努力が必要です。

会計・監査の専門知識以外の能力の中で、まず第一に必要なのはコミュニケーション能力です。監査チーム内での業務はもちろん、営業（新規開拓等の先開拓等）においてもこの能力は特に必要です。些細なことですが、目を見て相手と話ができる、相手の話を聞けることがとても大切になります。業務の性質上、営業ができる公認会計士は少ないのが現状ですが、昨今の業務範囲の拡大化や合格者数の増加等の実情を踏まえると、営業力に直結するコミュニケーション能力はこれからの公認会計士にとって必須となるでしょう。

コミュニケーション能力と並んで、英語力も今後必要となる能力です。現在、IFRS（国際財務報告基準）は任意導入とされていますが、数年後には強制適用となることが予定されています。その際、英語の原文を読む力が当然に求められます。また、IFRSが導入されると、世界中がライバルになることを意味し、海外の経理担当者・公認会計士と会計や監査の議論をするケースが増えると想定されます。日本の会計士の多くは、日常会話や会計専門用語は英語で話せても、深い議論になると、英語で議論をリードしたり意見を話したりすることができないといわれています。世界の人口のうち日本人は2%しかおらず、経済的な小国となっていく現在、英語で満足に自己主張できなければせっかくの専門知識も活かせません。英語力もこれからの公認会計士にとって必須となるでしょう。